

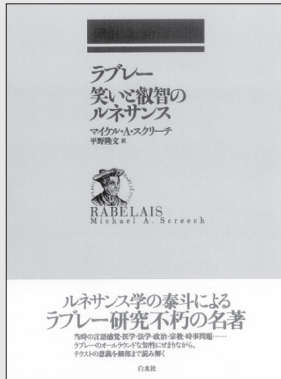
ラブレ

笑いと叡智のルネサンス

マイケル・A・スクリーチ◎著 平野隆文◎訳

ルネサンス学の泰斗による ラブレ研究不朽の名著

当時の言語感覚・医学・法学・政治・宗教・哲学・時事問題……
ラブレのオールラウンドな知性に迫りながら、テキストの意義を細部まで読み解く。



ラブレの広範な知性を、当時の言語感覚から医学・法学・政治・宗教・時事問題・著名な文献まで、文化的背景と共に蘇らせた、オクスフォード大学エメリタス・フェローによる画期的な一冊。

著者はバフチンの「民衆文化論」からは距離を置き、ラブレ作品を、知識人を読者層とした書物と見なす。そして、ローマ法・教会法を下敷きにした台詞や、特殊なヘブライ語の語彙が盛り込まれたテキストの意味や意義を、「ユスティニアヌス法典」等の基本文献の解説を交えて、逐一説き明かしていく。またアナール派による、作品中の聖書および聖書的文脈に無知な解釈にも批判的で、聖書の引用箇所や聖書的文脈についての綿密な解説は、英国国教会司祭でもある著者ならではの。さらに、作中に透けて見える、当時フランスの内政外交に大きな影響を与えたカトリックおよびプロテスタント各派の接近・対立関係を、神学的な要点を中心に、わかりやすく解説している。

ルネサンス学の泰斗による偉業が、驚きの「日本語版への序文」も収録して、ついに邦訳なる!

白水社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24
tel.03-3291-7811 / fax.03-3291-8448 / 振替 00190-5-33228
<http://www.hakusuisha.co.jp>

◆切り取って書店にお渡しください

*お書きいただいた個人情報は、ご注文書籍についてのお客様へのご連絡以外に使用することはありません。

購入申込書	書店印	マイケル・A・スクリーチ 著 平野隆文 訳 ラブレ 笑いと叡智のルネサンス 税込 21,000 円 (本体 20,000 円) ISBN978-4-560-09230-9	注文数 冊
	白水社刊	お名前	お電話番号
		ご住所	

マイケル・A・スクリーチ (Michael A. Screech)

1926 年生まれ。ラテン語とフランス文学を専攻、現在オックスフォード大学オール・ソウルズ・カレッジのエメリタス・フェロー。英国学士院、王立文芸家協会会員。ラブレール、エラスムス、モンテーニュに関する世界的な権威である。江戸文化に関する研究者として知られるタイモン・スクリーチは次男である。

目次

日本語版への序文

序文

第一章 ユマニスト的喜劇

第二章 『パンタグリユエル物語』以前のラブレール

第三章 『パンタグリユエル物語』

- 1 ユマニストの書物
- 2 『パンタグリユエル物語』の匿名性
- 3 パンタグリユエル: 巨人になった小人
- 4 「喜劇的ユートピア」
- 5 喜劇的騎士道物語
- 6 聖書を下敷きにした笑い
- 7 ヘブライ的笑い
- 8 喜劇的恍惚
- 9 糞尿譚的な笑い
- 10 反女性論的笑い
- 11 タブーをめぐる笑い
- 12 『パンタグリユエル物語』: 挿話的な「年代記」
- 13 ガルガンチュアの当惑
- 14 サン・ヴィクトール図書館
- 15 ガルガンチュアの息子宛の書簡
- 16 パニユルジュとパンタグリユエル
- 17 法学の世界に響く笑い: 註解者たち
- 18 法律世界に響く笑い: ベーズキョ対ユームヴェーヌ
- 19 トーマストの来訪: カバラ的な笑い
- 20 冥界巡り
- 21 パンタグリユエルの祈り
- 22 第一の「年代記」の結び
- 23 『パンタグリユエル物語』の成功

第四章 『一五三三年用の暦』、『パンタグリユエル占い、一五三三年用』および『パンタグリユエル物語』に対する初期の修正

- 1 ラブレール: 博識にして愉快な占星術師
- 2 陽気さの翳り

第五章 『ガルガンチュア物語』および『一五三五年用の暦』

- 1 『ガルガンチュア物語』: 大急ぎで印刷された宮廷向けの作品
- 2 『一五三五年用の暦』
- 3 『ガルガンチュア物語』: 序詞
- 4 『ガルガンチュア物語』: エピソードに分かれたもうひとつの「年代記」
- 5 『ガルガンチュア物語』: 初期の数章
- 6 主人公の誕生: 十一か月間の妊娠
- 7 主人公の誕生: 信仰をめぐる教訓
- 8 ガルガンチュアの衣装
- 9 ガルガンチュアの幼年時代
- 10 ノートルダム大聖堂の鐘を持ち去る話
- 11 ノートルダムの鐘: 同時代的諷刺
- 12 「ピクコロ戦争」
- 13 ジャン修道士 戦うベネディクト会修道士
- 14 サラダの中の巡礼者
- 15 テレーム修道院
- 16 神の選民への迫害
- 17 「予言の謎歌」
- 18 騒擾、迫害、そして「檄文事件」

第六章 『第三之書』

- 1 『ガルガンチュア物語』と『第三之書』の間のラブレール
- 2 『第三之書』のための国王による出版允許
- 3 『第三之書』: 学識に基づいて構築された書
- 4 『第三之書』の序詞
- 5 『第三之書』のテーマ群
- 6 借金と債務者の礼讃
- 7 パニユルジュのジレンマ
- 8 自己愛
- 9 占いによる助言
- 10 悪魔の役割

- 11 修辭的命題: ヒポタデの助言
- 12 医師ロンディピリス
- 13 笑劇の技法
- 14 キリスト教的懐疑主義と法学的調和
- 15 当惑とその法学的治療法
- 16 パニユルジュの狂気とキリスト教的預言
- 17 パニユルジュのメランコリーの狂気
- 18 良き狂気と悪しき狂気
- 19 「松脂に絡め取られたハツカネズミのごとく」
震にかかったパニユルジュ
- 20 パニユルジュが当惑の泥沼へとさらに深くはまっていくこと
- 21 判事ブリドワ: 作動する「キリスト教的狂気」
- 22 ブリドワの「キリスト教的狂気」の弁護
- 23 ブリドワと預言という神の賜物
- 24 トリプレと法律上の狂気
- 25 両親の同意なき結婚
- 26 パンタグリユエリオン草
- 27 『第三之書』の結末: キリスト教的懐疑主義の勝利

第七章 一五四八年版の『第四之書』

- 1 慌しく書かれた未完の書物
- 2 一五四八年版用の序詞
- 3 嵐
- 4 敵意に満ちた反応
- 5 パニユルジュの奴隷のごとき恐怖

第八章 一五四九年の『模擬戦記』

- 1 デュ・ベレーの模擬戦
- 2 奇跡か、あるいは伝書鳩か?

第九章 一五五二年版の『第四之書』

- 1 王権派の書物
- 2 一五五二年版の序詞
- 3 冒頭の数章
- 4 嵐
- 5 「嵐」の神学的含意
- 6 長生族の島
- 7 バンの死
- 8 「駝鳥の卵のような涙」
- 9 奇妙な言葉と奇妙な意味
- 10 カレームブルナンとアンドゥイユ族
- 11 鯨退治
- 12 獐猛島
- 13 言語学的喜劇と言語学的叡智
- 14 風の島の住人たち
- 15 教皇嘲弄族と教皇崇拜族
- 16 溶ける言葉
- 17 言葉と音声が溶け出す
- 18 『クラテュロス』における「分泌物」
- 19 騒音
- 20 太鼓腹師
- 21 答えられなかった質問
- 22 パンタグリユエルの返答: キリスト教的バッカス
- 23 行動は言葉よりも雄弁に物語る

訳者あとがき

書誌

年表

原註

人名索引